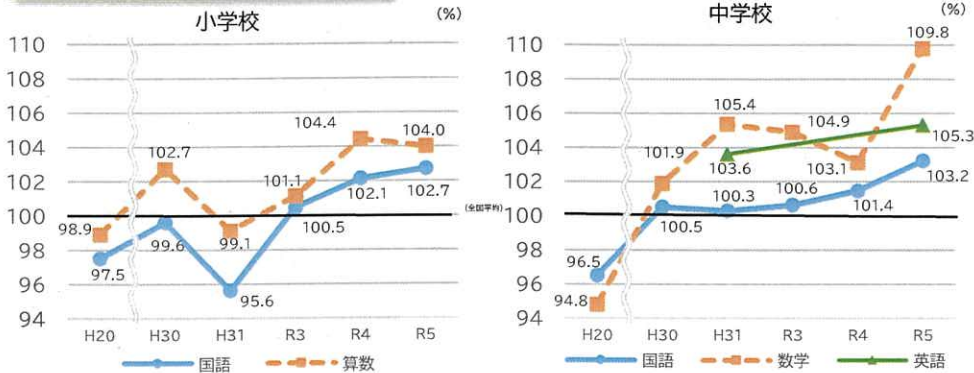


さらなる学力の向上をめざして

～自ら考え、自ら判断し、他者と協働しながら行動できる子どもの育成(急激に変化する時代の中で)～

令和5年11月16日
伊丹市教育委員会

1 平均正答率の経年変化



(令和5年度全国学力・学習状況調査結果)

小学校	国語	算数	合計
全国平均	67.2	62.5	129.7
石川県	72	67	139
秋田県	72	65	137
福井県	71	66	137
東京都	69	67	136
京都府	70	65	135
伊丹市	69	65	134
富山県	69	65	134
高知県	69	65	134
青森県	70	63	133
広島県	69	64	133
大分県	69	64	133

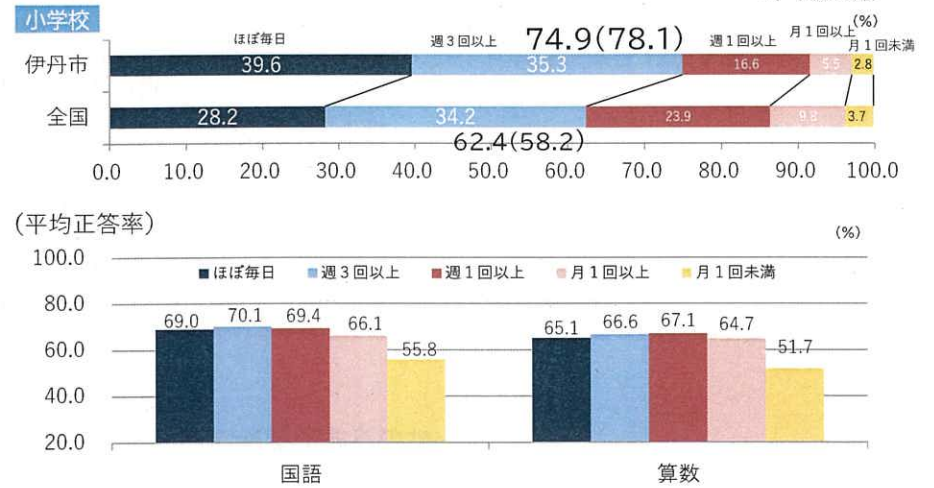
各地自治体の取組により、都道府県の差は縮まってきている

中学校	国語	数学	英語	合計
全国平均	69.8	51.0	45.6	166.4
東京都	72	54	52	178
石川県	73	56	49	178
伊丹市	72	56	48	176
福井県	73	55	48	176
愛知県	70	54	50	174
神奈川県	70	52	50	172
岐阜県	71	53	48	172
富山県	71	54	46	171
秋田県	74	52	44	170
静岡県	71	52	47	170
京都府	71	52	47	170

*R2年度は新型コロナウイルスの影響により中止

3 ICTの活用と平均正答率との相関

これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



4 参考(保護者の子どもへの働きかけと子どもの学力の関係)

令和5年度全県夏季教育委員会研修会より

各層において、以下の質問に肯定的に答えた保護者の割合
(A層は平均正答率が高く、D層は平均正答率が低い)

質問	国語			算数		
	A層	D層	差(A-D)	A層	D層	差(A-D)
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	80.9	63.0	17.9	79.1	67.4	11.7
博物館や美術館に連れて行く	37.9	22.0	15.9	34.4	20.7	13.7
ほとんど毎日、子どもに「勉強しなさい」という	51.2	56.9	-5.7	49.5	56.8	-7.3
毎日子どもに朝食を食べさせている	93.2	82.8	10.4	91.0	81.8	9.2
子どもの勉強をみて教えている	59.7	58.8	0.9	57.4	58.5	-1.1
子どもに一日の出来事を聞く	87.1	86.0	1.1	88.6	86.1	2.5
子どもを決まった時間に寝かすようにしている	85.3	78.9	6.4	83.3	79.0	4.3
家には、本(マンガや雑誌を除く)がたくさんある	72.6	48.0	24.6	67.3	52.4	14.9
子どもがいつもお手伝いをする家事がある	58.5	60.1	-1.6	58.2	59.1	-0.9
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	63.4	55.3	8.1	62.3	53.0	9.3
子どもが英語や外国の文化にふれるように意識している	57.7	40.2	17.5	55.4	41.6	13.8
子どもにいろいろな体験の機会をつくるようにしている	86.3	81.1	5.2	88.4	79.0	9.4

伊丹市の体力の現状と対策

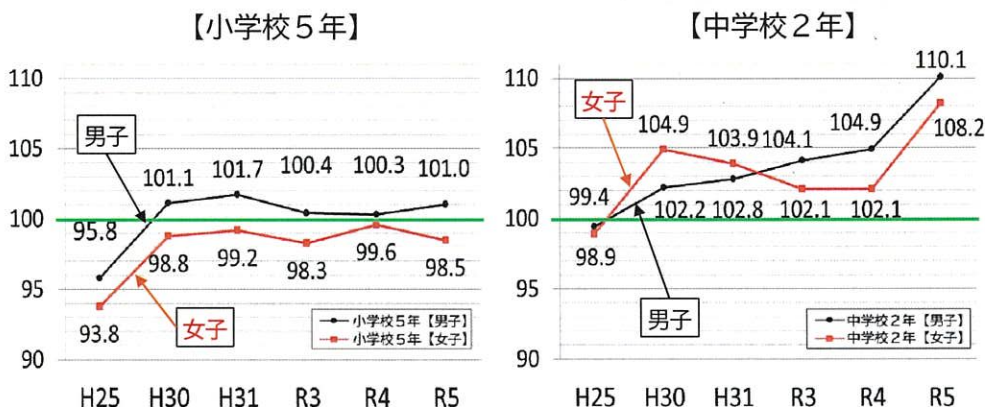
～「令和5年度全国体力・運動能力調査」に関する各校からの聴取より～

1 体力合計点

	小5男子	小5女子	中2男子	中2女子
伊丹市	52.80	53.48	45.20	51.31
全国	52.28	54.31	41.04	47.42
差	0.52	▲ 0.83	4.16	3.89

※ 握力、50m走など8種目の数値を点数化し、その合計点（80点満点）で体力合計点として算出。

2 体力合計点の経年変化



※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止

3 現状と分析

- ① 中学校で大きく上昇したのは、コロナ禍で制限されていた部活動が従来の形に戻り、**運動機会**や時間が増加したことが考えられる。
- ② 小学校では、男女とも「**20mシャトルラン**」に大きな課題が見られる。
- ③ 中学校女子は、前年度と比べ大きく体力が向上したが、「**持久走**」に課題が見られる。
- ④ 小・中学校ともに「**握力**」が低下傾向にある。さらに小学校は男女とも「**ソフトボール投げ**」も低下傾向にある。
- ⑤ 小学校は、ここ近年、体力合計点も**低下傾向**にある。

4 対策

- ① **自校の状況把握**
 - ・管理職をはじめ、**全職員**が自校の状況を把握し、課題解決に向けた取組を行う。
- ② **体育授業の改善と工夫**
 - ・サーキットトレーニング、補強運動を**意図的、計画的、継続的**に取り入れるなど、**運動量を確保**する。
 - ・授業において**PDCAサイクル**を用い、評価と改善をこまめに行う。
 - ・**ICT**を活用し、自分や集団の動きを確認したり、見本の提示を行ったりする。
- ③ **運動機会の確保**
 - ・業間休み等において、**外遊びを推奨**する。
 - ・委員会活動などで**イベントの設定**をする。
 - ・体育の宿題等による**運動の日常化**を図る。
- ④ **家庭・地域との連携**
 - ・体力の現状を学校運営協議会や保護者に**積極的に発信**する。
- ⑤ **教員の指導力向上**
 - ・校内研修等において、子どもたちの**課題改善に資する研究**を行う。
 - ・子どもたちが**力を出し切れる事前指導や測定方法**について、**研修**や各校での**情報交換**を行う。

5 体力向上と健康

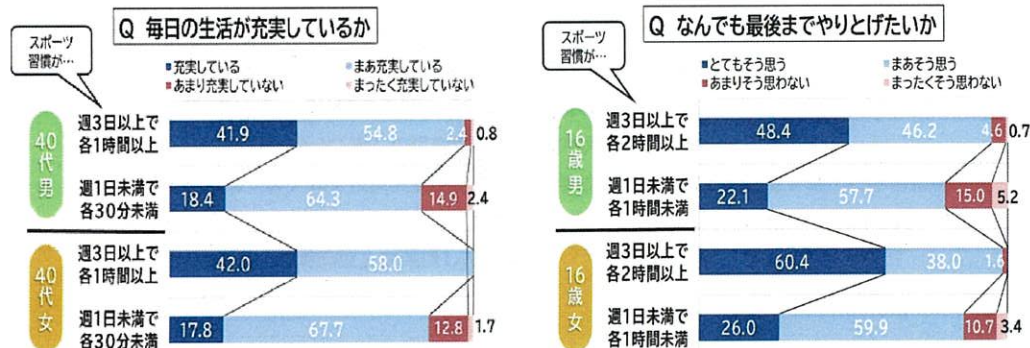
なぜ体力向上に取り組む必要があるのか

- ① **意味**が分からなければ本気で取り組めるはずがない。
- ② 運動習慣は、**子どもの頃のスポーツ**がベースとなる。
- ③ 運動習慣は、自らの**将来の人生**を左右する。

運動習慣の効用

- ① 心臓病や血管系の疾患、糖尿病、ガンの予防につながる。
- ② **脳の機能**を高める。
- ③ **健康寿命**の延伸。
- ④ **メンタルヘルス**の向上につながる。

6 参考「2022年度体力・運動能力調査」に基づくスポーツ習慣と生活意識



(出典:「2022年度体力・運動能力調査」に基づくスポーツ習慣と生活意識)

(出典:「2022年度体力・運動能力調査」に基づくスポーツ習慣と生活意識)

不登校児童生徒への対応

1 不登校の現状

(1) 不登校児童生徒数の推移

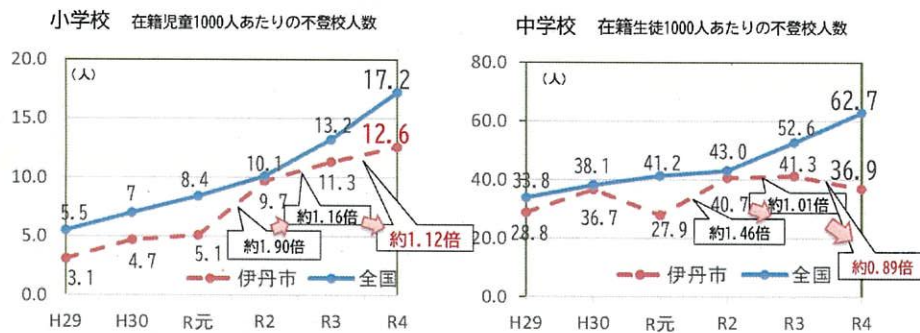
【小学校】

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
伊丹市	不登校児童数	35人	53人	58人	109人	126人	139人
	1,000人あたりの不登校人数	3.1人	4.7人	5.1人	9.7人	11.3人	12.6人
全国 (注1)	不登校児童数	34,732人	44,471人	52,905人	62,862人	80,825人	104,265人
	1,000人あたりの不登校人数	5.5人	7.0人	8.4人	10.1人	13.2人	17.2人

【中学校】

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
伊丹市	不登校生徒数	148人	184人	138人	207人	214人	196人
	1,000人あたりの不登校人数	28.8人	36.7人	27.9人	40.7人	41.3人	36.9人
全国 (注2)	不登校生徒数	104,295人	114,379人	122,519人	127,671人	157,019人	185,810人
	1,000人あたりの不登校人数	33.8人	38.1人	41.2人	43.0人	52.6人	62.7人

(2) 出現率の推移



2 国における方針 (文部科学省 令和元年10月25日 通知より)

(従来) 「学校に登校することが前提」

社会的自立を目指す

教育機会確保法
(平成28年制定)

- ・ 教育支援センター
- ・ フリースクール
- ・ ICTを活用した学習支援
- ・ 学びの多様な学校 (不登校特例校) など

2 伊丹市における不登校対策の考え方

- ① 不登校を減らす
- ② 未然防止・早期発見・早期対応の充実
- ③ 社会的自立を目指す取組の充実

3 具体的な取組

(1) 未然防止

- ① 自分の居場所がある学級・学校づくり
 - ・ 達成感を味わえるような日々の実践
 - ・ 体育的行事や芸術的行事等、**学校行事の充実**
 - ・ 一人ひとりの「好き」「得意」なことに没頭できる環境づくり
- ② わかる授業の創造
 - ・ **授業研究の充実**
(「主体的・対話的で深い学び」「授業のユニバーサルデザイン化」)
 - ・ **少人数学習や習熟度別学習の導入**
 - ・ **補習や放課後学習の実施**

(2) 早期発見

- ① 「不登校対策共通実践事項」の目的の共有・徹底
- ② 児童生徒のサインを見逃さないための仕組み
- ③ 普段から気になる児童生徒について、学年、学校全体で情報共有できる風土づくり

(3) 早期対応

児童生徒の**個人状況・学校対応状況シート**の活用

(4) 社会的自立を目指す取組

- ① 在籍校と**教育支援センター「やまびこ」**が連携した支援
- ② 「別室登校」「放課後登校」「保健室登校」等、児童生徒や家庭の状況に合わせた対応
- ③ 「自宅におけるICT等」の児童生徒や家庭の状況に合わせた学習活動
 - ・ Web会議システムや授業支援ソフトによる学校と家庭、教室と別室を結んだ学習指導
(教室の授業のライブ配信、課題配布、健康観察 等)
- ④ 在籍校と「**民間施設**」が連携した支援